

2017年度 聖学院大学総合研究所  
 聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet 共催  
 第20回ピア・スーパービジョン報告



開会挨拶：中村磐男先生（上段左）  
 講演：牛津信忠先生（下段右）

2017年10月14日（土）、聖学院大学4号館第一・第二会議室を会場に、「第20回ピア・スーパービジョン」（聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet〔聖学院ウェルフェアネット―卒業生を中心とする福祉のネットワーク〕共催）が出席者25名を集めて開催された。開会の挨拶は、中村磐男氏（聖学院大学名誉教授）が務められた。総司会は、山田裕太氏（SWnet）が務められた。

第1部（午前の部）の講演は、牛津信忠氏（聖学院大学大学院人間福祉学研究所客員教授）が担当された。講演会后、卒業生の川田虎男氏（司会）、山口雄大氏、SWnet所属の佐々木武氏から、牛津氏へ現場から発していることを投げかけるかたちでシンポジウムをおこなった。ランチ交流会を挟んだ後、第2部（午後の部）では、冒頭で川田虎雄氏が導入を担当された後、ピア・スーパービジョンを行った。

牛津氏の講演は、「Trial and Error人間福祉の本質へ帰還し、現実に戻る」と題されて行われた。人権の平等は、憲法はもとより国際的にも保障されている。しかし、人権無視と思える社会認識が

存在している。いつも、帰る場所を心のうちに堅固にもっておくことは必要である。本質に帰還しつつ、考えをしっかりと確認して行動し、福祉の再構成を続けて行くことが重要である。また、人間における価値には、存在価値（キリストの愛に在って生きる在り方）と利用価値（自分に利することを求める考え方）の二つがある。我々は、存在価値に立つ考え方をしっかり受け止めながらも、利用価値の考えをも人間の常なる姿と理解しつつ、基本においては、人間の社会的価値という意味での存在価値を重視していくことが大切である。現実における試行錯誤の為には次の6点が重要である。①地域福祉（地域という生活態における人としての人生づくり）を重要視して行くこと。②地域における共生、共楽、共苦、共育の現実化の一步一步を歩むこと。③「潜在能力の自由度の確保」と「その条件設定領域の開発」の行わないし行動の場が、自我的な主体と「人格」主体の連続性を形作る連結の場そのものであること。④また、その連結項を経て、相互的人格主義の「生」ないし「生活」への浸透が果たされていくこと。⑤ハーマン等による「自己」と「対話」についての実践上の位置づけがあること。⑥「対話的自己」と福祉的プロセスの考察があること。

シンポジウムでは、山口氏と佐々木氏が、現場の状況を踏まえつつ、牛津氏の講演に対するレスポンスを行った。山口氏の「障害者区別の際に、条件を整えることは、差別につながるのではないか、変な区別をしてしまうことがあるのではないか」という質問に対して、牛津氏は、「なぜ、条件を整えると変になるのか。条件の設定の仕方を、寄り添いつつ、よりきめ細かい条件を整えていけばよい」と応答された。また、佐々木氏の「障害者雇用はストレスとの闘いである。正社員になりたい人がなれない現状がある。雇用において障害者枠が形骸化している。どうしたらよいか」という質問に対して、牛津氏は、「力の問題もある。政

治の力を借りて変えられもする。みんなで変わるべきものを変えていこうとする志向性が大切である。一人一人が光を放つあり方を探求する中で、この子ら（困難を担う人）を世の光とする道が用意されていく。人がその人自身となって生きる道、一人一人にこの道を探しだしていくのが、真に社会福祉なのである」と応答なされた。

第2部の「ピア・スーパービジョン」では、少人数のグループに分かれ、スーパービジョンを行った。実際のピア・スーパービジョンの内容は、議論の性質上割愛させていただくが、自己紹介を交え、和やかな雰囲気の中で、率直な意見交換がなされた。お互いの考えや価値観を尊重し、認め合う傾聴と受容の姿勢が印象的であった。「今回もこの会に参加して、いろいろ話すことができてスッキリした、気持ちよかった」という声も聞くことができた。

グループ発表後、柏木昭氏（聖学院大学名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問）が総括を語られた。日々の働きの中で、ソーシャルワーカーはクライアントと真摯に向き合い、主体と主体の葛藤を通して、互いに成長して行ってほしい。この会を継続し、更に発展させてほしいとの内容であった。閉会の挨拶を相川章子氏（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授）が担当され、今回も贅沢なとても良い時間を過ごすことができ感謝、この会の親密な関わりと雰囲気をこれからも大切にしていきたいと締めくくられた。

（文責：吉田 進 [よしだ・すすむ] 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科博士後期課程）